



2021年スペシャルオリンピックス日本
スポーツプログラム委員会

フロアボール導入に向けた説明会 7月11日(日)



目次

1. 新競技の導入に向けた流れ
2. 導入の背景
3. ゲストスピーカーの紹介
4. フロアボールとは
5. 今後の展開
6. 質疑応答



1. 新競技の導入に向けた流れ

【通常】

- SO国際本部からトレーナーを招聘し、トレーナー養成講習会の開催

【現状】

- コロナ禍のため、海外からトレーナーの派遣が難しい
- SO国際本部と関係のある競技団体指導者が日本国内外に在住
- 競技団体指導者によるコーチクリニックを開催し普及推進を図る



2. 導入の背景

- ・2011年 SOI×国際フロアボール連盟(IFF) 覚書締結(協力提携)
- ・2013年5月 冬季世界大会・平昌で初めてデモンストレーション実施
- ・2017年3月 冬季世界大会・グラーツで正式競技に採用⇒43チーム・30カ国参加
- ・2022年1月 冬季世界大会・カザンで60チーム参加予定

→既存アスリートの活躍の場の拡充

→新規アスリート・パートナーの開拓

→ユニファイドスポーツの普及

→競技備品が手に入りやすい(導入しやすい)

→日本フロアボール連盟(JFF)との連携(コーチ養成、競技会運営)





3. ゲストスピーカーの紹介

高橋由衣氏（フロアボール女子日本代表）

田島達朗氏（フロアボール男子元日本代表）



4. フロアボールとは





4. フロアボールとは

競技の魅力、楽しさ・面白さ

- フロアボールは、球技の分類から考えると、サッカーやバスケットボール、ハンドボールと同じゴール型ゲームであり、ボール操作をスティックで行う競技である。
- 直接手や足でボールを操作することが多い他のゴール型ゲームに対し、フロアボールは、ソフトボールやテニスの様に、用具を用いてボールをコントロールする要素を持つ、複合的な種目として捉えることができる。
- 特別なスキルを必要とせず、ルールがシンプルな上に、アイスホッケーの様な防具を必要としないため、スティックと室内シューズがあればだれでも始められる手軽なスポーツである。また、タックル等の格闘技的要素が排除されていることから、IFFは「男女間の平等がうまく実現されているスポーツであるため、学校現場や職場等で行われるスポーツに適している。」と述べている。

参考：IFF school curriculum(2015)



4. フロアボールとは

フロアボール

アイスホッケーの室内版

ルールがシンプルかつ防具を必要としない安全なスポーツ

チーム競技、個人スキルコンテスト



	4人制	6人制	ユニファイド
プレイヤー人数	4人(ゴーマー含)	6人(ゴーマー含)	5人(ゴーマー含)
登録人数	8人~10人	8人~12人	8人~12人
試合時間	7~15分×2	15~20分×3	7~15分×2
コート of 広さ	ミニバス程度	ハンドボール程度	バスケット程度
バウンダリー ボード	高さ 50cm程度(既製品)		
競技用具	ボール、スティック(既製品、3~5千円程度)、ゴール		



5. 今後の展開

【コーチクリニック:座学】

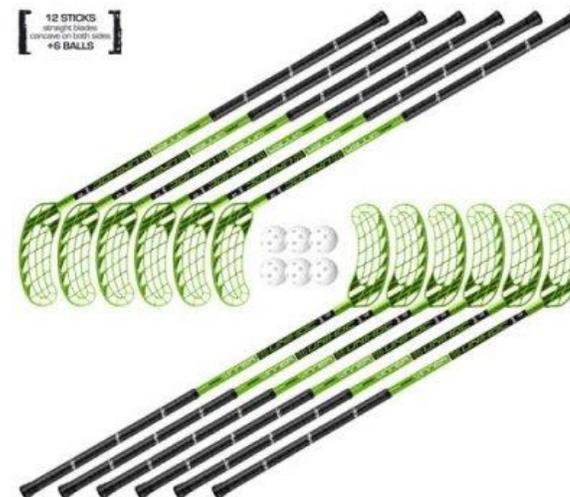
- 1回目:9月3日(金)19:00~20:00
- 申込: <https://zoom.us/meeting/register/tJYqd-GppzguEtNaWq5yT4qhK908nj3F2XGM>

【コーチクリニック:実技】

- 年内調整中

【体験会・デモンストレーション】

- 希望地区を対象に開催予定





6. 質疑応答

Q & A